

ぎんれい会

平成三十年八月

雲映す兵庫運河や初景色

主宰 細野恵久 福祉三期

鮮衣ありぎぬの吾子と立ちたる初鏡

増田和子 食文一期

確かめつ夫婦会話の去年今年

改正節夫 国際三期

ざんぷりと湯に身をしづめ除夜の鐘

藤井秀重 生環四期

産土の散居は今も初景色

三枝邦光 美工五期

大阿蘇を統べて赤牛初山河

國永靖子 音文六期

棚田跡竹藪と化し山眠る

猿橋二三雄 福祉八期

御降りや犬の面にも薄化粧

加藤善巳 美工八期

人日や生田の森の句碑行脚

太田 實 国際十期

パイの生地をねかせておるなり冬至粥

大下絹子 国際十五期

ドライバーショットの向ふ初山河

中村建生 国際十五期

初春やよちよち歩きとハイタッチ

藤本武子 国際十五期

小さくなる飛鳥Ⅱ送る大聖樹

山下 進 国際十五期

点灯を待つ足踏みやルミナリ

許斐國照 食文十五期

あと少しタスキ届かず凍てる空

小淵政子 健福十六期

初日得て階上階下開け放つ

兼清久子 健福十七期

母乳張る母子をくるんで初日の出

宮本公子 健福十七期

戦争なき六度の干支や初山河

沖本元辺子 国際十七期

広々と隣家の跡地初景色

香春早苗 国際十七期

華やぎや懸想文売る京の宮

仲田慎輔 国際十七期

また二人緩り寧日二日かな

中村富美子 国際十七期

初雪や大社の禰宜の急ぎ足

宮本眞貴子 国際十七期

初空に一筆描く飛機の雲

江間れい子 園芸十七期

手水舎の竹の青青淑気かな

小栗恭子 健福十八期

初釜の正客の子ら膝そろへ

潮江敏弘 健福十八期

晩学の俳句の道や年深し

野見山剛 健福十八期

年の瀬や両替機には長き列

大山吉春 国際十八期

負け役も板に付きたる絵双六

今井義和 美工二十期

町騒を一夜にて消し初景色

尾崎育久 美工二十一期

初山河古里の黙人の黙

黒木早苗 食文二十一期

八十の夫迷わず五年日記買う

宮脇暁美 食文二十一期

第二百四十五回ぎんれい句会（一月十二日開催）より